

令和4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493100547	事業の開始年月日	令和2年2月1日
		指定年月日	令和2年2月1日
法人名	医療法人 裕徳会		
事業所名	グループホーム にじいろ港南台		
所在地	(〒234-0054) 横浜市港南区港南台7-9-41		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	令和4年3月22日	評価結果 市町村受理日	令和5年6月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの弱みである、医療面、災害面、設備面に力を入れていて、ご自分らしく長く生活していただける施設を目指している。
時代の変化を楽しみ常に成長し続けていける施設を目指している。
地域の繋がりを大切にしている、関わる方全ての人を価値のある対等な人であると考え、少しでも人の役に立ちたいという精神を持って運営をしている。
また、一番の資源である職員を大切にしている、職員の特徴や価値観を大切にしながらマネジメントを行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和5年4月5日	評価機関 評価決定日	令和5年6月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【概要】 事業所はJR京浜東北根岸線港南台駅から徒歩13分、またはバスを利用して最寄りのバス停からは徒歩1分の場所に位置する強固な地盤で水害の恐れのない土地を選んで建てられたRC構造の3階建て3ユニットのグループホームである。敷地前の道路には街路樹が植えられ、歩道も広く整備されている。防犯及び転倒防止のためのITVカメラ、居室の見守り支援システム、各階の機械浴等の設備が充実している。玄関扉は組子文様が施され、木目調に統一された落ち着いた内装である。 【職員発案による利用者が楽しめる工夫】 コロナ渦の中にあっても徹底した感染対策のもと、職員発案で、多彩なボランティアが来所し、エイサー踊り鑑賞や月1回のバイオリン演奏会、納涼祭では、浴衣を着付けてもらった利用者が輪投げ等のゲームを楽しむ等、様々なレクリエーションを実施している。また、外出に出掛けたり、風呂場に造花の桜を飾ってのお花見をしたり、福祉ネイル(有料)を利用する等、利用者に日々を楽しんでもらう工夫をしている。 【職員育成のための充実した支援】 キャリアパスの中で職責に必要な業務教育が明示され、内部研修の他、外部研修についても管理者判断で受講を認めている。受講は業務扱いで、費用も交通費を含めて事業所が負担している。認知症ケア専門士や喀痰吸引研修等の受講者には報奨金を支給し、介護福祉士、喀痰吸引、ケアマネジャー資格取得者には資格手当を増額している。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームにじいろ港南台
ユニット名	梟ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

事業所名	グループホームにじいろ港南台
ユニット名	翡翠ユニット

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

事業所名	グループホームにじいろ港南台
ユニット名	啄木鳥

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に日々実践につながるよう研修を実施。定期的に面談を行い話し合う場を設け、周知できるよう努力している。	理念と7つの柱は事務所内に掲示し、尊厳の保持と家庭的な雰囲気を重点に置いている。各ユニットリーダーが日々のケアを通じて理念の実践状況を評価し、何か気になることがあればリーダーは職員と理念を踏まえたケアを実践できているのかを話し合っている。管理者は職員に対して、定期的に実施する面談時や年間計画に基づく研修時に理念を伝えている。職員からは、理念にある「チャレンジ精神」で色々な提案が出され、コロナ禍で外出できない代わりにボランティアを活用して、事業所内で楽しめる様々なレクリエーションを実施している。納涼祭では、浴衣を着付けてもらった利用者が射的や輪投げを楽しむ他、エイサー演舞を鑑賞やバイオリン演奏会、また、ボーリングを行ったり福祉ネイルを利用する等して、利用者に喜んでもらっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	社会福祉協議会を介し、演奏ボランティア、踊りボランティアを実施。令和4年度に看護専門学校の17名の実習受入実施。令和5年度も20名程の実習受入実施予定。自治会の防犯パトロールに月2回程度参加させてもらう。	現時点では、自治会の規定により加入が認められていないが、複数回の声掛けで、10月からは月2回の防犯パトロールに参加できるようになり、令和5年度からは月1回の会合へのオブザーバー参加依頼が届いている。また、最近では、地域のお知らせも届くようになった。事業所の前にあるコンビニ等で近所の方と出会うと挨拶を交わし、会話をすることを心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	港南台ケアプラザより依頼をいただき、施設を探している方々へ、グループホームについて講義を実施。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、書面開催で実施。頂いた意見については、管理者からリーダーへ繋ぎ、施設全体での取り組みとできるよう努力している。	2か月に一度、書面開催をしている。メンバーは地域包括支援センター職員、民生委員の他、法人内の複数施設の職員で構成され、利用者家族は入っていない。メンバーには活動報告書と詳細資料及び意見や要望を求める書面と返信用封筒を同封して郵送している。受け取った意見・要望や提案内容と、それに対する事業所の考え方や新たに取り組む内容等を反映させた会議開催報告書を改めて送付している。	委員会構成メンバーに最も身近な利用者やその家族が入っていません。また、地域住民との連携も事業所にとって大変有益になると思いますので、今後自治会との関係を構築しつつ、今一度構成メンバーを見直されることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	同施設内の居宅介護支援事務所と連携し、地域包括支援センター・ケアプラザの職員へ事業所内のサービス内容やご入居者様のご様子をお伝えしている。	区の高齢・障害支援課には、介護保険手続きや不明点の確認等で出向いている。市の福祉局事業指導課にも電話で相談することがある。3名の生活保護受給者がおり、本人の希望もあって概ね3か月に一度、生活支援課職員が来所しており、その際、管理者が同席して話を聞く他、相談もしている。グループホーム連絡会に入っており、Webまたは対面で会議に出席し、情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・高齢者虐待について委員会を設置し、3か月に1回実施、研修について年2回実施し、委員会メンバーを中心に施設全体へ意識するよう努力している。	「身体拘束廃止に関する指針」を整備し、身体拘束・高齢虐待委員会を3か月に一度開催している。各フロアで議事録を回覧し、職員には、確認後サインして貰っている。研修は全従業員を対象に虐待防止と併せて年2回実施し、受講後に提出される感想レポートを管理者及び委員会で確認している。未受講職員には資料を回覧してサインを貰っているが、理解度までの確認はできていない。管理者主催で年1回全体会議を開催し、身体拘束及び虐待防止について職員に伝えている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・高齢者虐待について委員会を設置し、3か月に1回実施、研修について年2回実施し、委員会メンバーを中心に施設全体へ意識するよう努力している。	身体拘束・高齢虐待委員会を3か月に一度開催し、全従業員対象に年2回、虐待防止と併せて研修を実施する他、昨年1月に職員向けに実施した自己点検シート結果を虐待点検改善会議で分析し、理解度の低かった内容を研修に結び付けた。管理者はこまめに各フロアを回って職員のケア状況を見守り、気になることはさりげなく雑談交りに声掛けする他、フロアリーダーに伝えて、リーダーが本人と会話したり、フロア会議で共有している。職員間での会話は常にできており、気になることはユニットごとの申し送りノートに記入して共有している。虐待を発見したら報告義務がある事について、研修の中で話している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、対象となる方へ適宜お話しさせていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、内容について説明させていただき、都度不明点がないか確認し、了承を得て実施している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、意見をいただくことがないため、管理者、職員の方からご入居者様、ご家族へご意見を伺っている。頂いたご意見は苦情委員会で話し合い、職員へ周知し改善を図っておる。	玄関に意見箱を設置しているが意見は入っていない。利用者には直接、家族等には、利用者の様子を伝える電話をかけた際に、意見を尋ねている。家族からの意見は、各フロア1名で構成される苦情委員会で対応を検討し、職員は議事録あるいは、フロア会議での伝達で内容を確認している。窓越し面会を再開した際に「これでは話ができない」というご家族からの意見を受け、法人に了解を得て対面での面会に切り替えた他、家族の要望を受けて毎日午前中に行う全員での体操に加えて、対象の方には午後にも体操を行う等、対応している。更新頻度は少ないがブログを活用して入居時に写真等の掲載の了解を得た方の日々の様子を写真入りで発信している。また、請求書送付時に不定期だが利用者の写真入りの手紙や面会再開のお知らせ等を同封している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	小規模であるため全職員で運営を行ってる。ユニット毎に権限を持ってもらい、自分たちで創造している。また、何かを決定する際は、職員の意見を大事にしている。	毎月ユニット会議を開催し、各リーダーが意見や要望を確認して、リーダー会議で管理者にも伝えている。会議を欠席した職員は議事録で確認してサインしている。管理者は半期に一度の面談の際に意見を聞く他、こまめに各フロアを回って職員とのさりげない会話の中で様子を確認している。法人の伝達事項は各自Web上で確認する他、朝の申し送り時に管理者が伝えている。各フロアでの行事内容は職員からの積極的な提案を活かすことが多く、ボランティアを活用しての月1回のバイオリン演奏会の他、秋の納涼祭では浴衣を着付けてもらった利用者がゲームを楽しみ、エイサー踊りを鑑賞する等、多くのアクティビティに結びついている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の出勤状況をシフト、出勤簿で把握している。残業は事前申告制として、サービス残業はさせず、残業内容を明確にした上で許可している。4月、10月に自己評価をしてもらい、ユニットリーダー、管理者が評価し、賞与に反映するよう取り組んでいる。また、適宜面談を行い、やりがい、目的を持って働けるような環境作りを実施。	管理者が作る事業所年間目標を踏まえて、パート職員含めて各職員がリーダー及び管理者と一緒に個人目標を作成し、それをもとに年2回評価面談を実施して給与にも反映させている。法人として常勤雇用を主体に考えているため、1年以上勤務するパート職員には常勤職員になる道がある。年2回の健康診断を実施し、何か指摘のあった職員には優先的に休暇の取得を勧めている。メンタルケアについては、周囲の職員からの情報を得た時や本人の様子で気になる際に管理者が意図的に本人に声をかけている。残業は必要最低限にとどまっており、有給休暇も適切に取得できる体制が整っている。各フロアに休憩室があり、職員はそこで休憩を取ることができる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受講し取得した資格により、報奨金を出し、資格手当の増額を実施。また、事業所内の伝達を条件として、事業所負担にて外部研修の参加を促している。	職責に必要な業務教育が明示されたキャリアパスがあり、職員にも公表している。年12回の事業所内研修、法人研修の他、外部研修についても、レポート提出あるいは事業所内でのフィードバック研修を条件に管理者判断で受講を認めている。受講は業務扱いで、費用も交通費含めて事業所が負担している。認知症ケア専門士や喀痰吸引研修等の受講者には報奨金を支給し、介護福祉士、喀痰吸引、ケアマネジャー資格取得者には資格手当を増額している。新人には、1ヶ月程度の期間、リーダーを中心に担当者がついてOJTを実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内でのANA職員による接遇研修の開催、グループホーム連絡会への参加をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問し、アセスメントを行い、ニーズを把握し、全員が閲覧できるようファイリングし共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問し、アセスメントを行い、ニーズの把握と細かな説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時にご本人様に必要なサービスを第一にアドバイスをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築けるよう、ご入居者様のご意見を尊重し、信頼関係を築けるよう努力しているが、職員全員が行えているとは言えない。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係を築けるよう、ご入居者様のご意見を尊重し、信頼関係を築けるよう努力しているが、職員全員が行えているとは言えない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ的环境下で制限はあるが、感染予防を行った上で対面での面会を行っている。また、行動制限が緩和された際には、外出を行ってもらっている。	電話の取次ぎや年賀状の返信を支援している。新聞を読む方の個人購読支援の他、習字好きな方のためにフロアで習字イベントを企画したり、秋祭りで希望者にノンアルコール飲料を提供したりする等して、各々の利用者に合わせた生活習慣や趣味の継続を支援している。面会は大半は家族だが、家族が友人を伴って来所した例がある。3月には、家族と一緒に外食に出かけた利用者がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している方がいないよう職員が仲介して会話を促している。また、全員を巻き込んでレクリエーションや得意なことを行っただけのよう提供し、コミュニケーションを取るようになっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去理由は、ご逝去が多いが、ご家族様との継続的なつながりを大切にしている。現在、ご退去されたご家族が施設に花を飾りに来てくださっている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段から信頼関係を気づけるよう職員から積極的にコミュニケーションをとるようにしている。その上で、ご本人様へ聞き取りを実施。お答えが困難な方は、ご家族から入居前の様子を伺い検討している。	日々の生活の中で出来ない事が増えてきているので、利用者に直接、やりたいことを「これやりたいですか」等と聞いて、ユニット会議でやり方や手段を検討している。お風呂等で意向を聞くこともある。意思疎通が難しい方には表情読み取ったり、過去歴から推測して対応している。職員は、把握できた意向は、タブレットの支援記録に入力するほか、ノートに記入し、皆で確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルや聞き取りを用いて生活歴や興味あることを把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1.2カ月毎にフロア会議を開催し、情報共有、分析を行っている。また、日々の申し送るの中で些細な変化や気づきを共有している。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者、居室担当者、フロアリーダーでモニタリングを行い、それぞれの気づきが介護計画に行かされるようにしている。 また、入院などで変化があれば、その都度サービス担当者会議を行い見直しを行っている。	入居時に作成したケアプランは2~3か月で見直し、変化ある際は、適宜、通常は短期6ヶ月、長期1年で見直している。モニタリングは6ヶ月に一度、モニタリングノートをもとに計画作成者、ユニットリーダー、居室担当者で実施し、アセスメントも含めて評価表で評価している。必要に応じて計画作成者、ユニットリーダー及び居室担当者でサービス担当者会議を開き、往診医には往診時に意見をもらい、家族には本人状況を伝える際に意向を確認したうえでケアプランに反映している。職員は、ケアプランをWeb上で、もしくは施設された棚にある紙の個人ファイルで見ることができる。日々のケアはWeb上で電子情報を見ながら確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子記録により、些細な事でも記録に残し、共有できるようにしている。その内容を基に、会議を行い見直すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、ご家族様のニーズを1番に考え、個別の対応をするよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方にボランティアに来ていただき、生活を楽んでもらえるよう努めている。しかし、地域資源への参加は行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の港南台病院に月2回往診にきていただいている。また、以前よりかかりつけ医へ定期的にかかっている方は、ご家族または職員が通院対応している。	協力医療機関から月2回往診があり、24時間オンコール対応である。職員は、往診時の直接意見と個別の診療情報提供書の情報をWeb上で確認できる。訪問看護師が週2回来所して利用者の健康管理を行っている。24時間相談体制がある。歯科医が歯科衛生士同行で週1回の来所して希望者の治療や口腔ケアに当たっている。外部医療機関の受診は家族同行の他、職員も対応している。受診結果は家族からの聞き取りの他、医師から意見書を貰って、訪問医に伝えている。訪問マッサージが週3回あり、希望者が施術を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	港南台病院や訪問看護ステーションへ24時間連絡できる体制をとっており、相談、報告がいつでも出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	港南台病院と連携を取っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針を説明している。また、日頃から主治医、薬剤師、看護師と連携をとり、都度状況を報告し、ご家族様、ご本人様の意向を確認している。 看取りについて、訪問看護師に研修を実施してもらい、介護職員への知識を深めていくよう努めている。	入居時に「看取り介護の指針」を説明している。入居後は、医師等からの情報をもとに利用者の状況を都度報告して適時意向確認している。状態が変化してきた時点で管理者が同席のうえ、医師が家族に説明し、「ターミナルケアについての同意書」を交わし、看取り介護対応に入っている。この1年で4名の看取りを行った。終末期・看取りに関する研修は5月に実施したが、実際の看取り後の振り返りの際の意見を踏まえて、2月にも訪問看護師に講師を依頼して、職員対象の研修を実施した。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応時の研修やマニュアルの整備を行っているが、全ての職員が身につけていない。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しており、出来るだけ多くの職員が参加している。 夜間を想定したマニュアルはあるが、訓練は行えていない。また、地域との協力体制が気づけていないため、自治会へ防災訓練など参加させてもらうようお願いしている。	9月に昼間火災想定での総合訓練、消火器の使い方がわからないという声を受けて2月に消火訓練を実施したうえで、3月に昼間火災想定での避難訓練を実施した。避難経路について職員は認識しており、マニュアルもあるが、管理者は入居者27名の確実な避難について、さらに工夫したいと考えている。地震に備えて共有部分の家具等には転倒防止対策を施している。日常使いの業者から配送される冷凍食品が常時3日分程度ストックされているので、災害時には、利用できる。懐中電灯やガスコンロ等も備え、職員は備品の保管場所を把握している。	万一に備えて、未実施の夜間や地震想定での避難訓練の実現を期待します。今後、自治会との関係構築の中で、近隣住民の協力が得られるようになることを期待します。また、備蓄食品が冷凍ということですが、電気が止まることも想定して常温で保存できるものを常備されることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を大切に、尊敬の気持ちを持ち忘れずに対応するよう心掛けている。	呼称は、名字にさん付けである。ユニット会議は、利用者に聞こえないよう各階の休憩室でドアを閉めて行っている。トレイ誘導等は利用者の耳元で小声で声掛けし、転倒リスクがない方についてはトイレの外で待つ等の支援をしている。管理者は、常日頃から、「利用者の皆さんは先輩なので敬意を持ちましょう」ということを職員に伝え、できていない場合は注意喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意見を汲み取れるよう傾聴を心掛け、自己決定しやすいように意見を尊重するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが無理強いはず、ご本人様のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服を選んでいただいたり、西洋行為が安全に行えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、食器洗い、食器拭きなど個別で行えることが違うため、行えることをしていただいている。	業者から3食とも冷凍と冷蔵の食品が届き、湯せん等で提供している。ご飯、味噌汁、生野菜を使ったサラダは職員が作っている。水曜日は朝食にパンを提供している。できる方は、食事の盛り付け、食器洗い、食器拭きをしている。 2ヶ月に一度、宅配サービスを利用したイベント食として利用者に希望を聞いて寿司や天丼、中華料理を注文する他、毎月実施している食事レクでは、ピザやパンケーキ等のデザートを提供して好評を得ている。2ヶ月に一度の誕生会では、市販のケーキを購入して祝っている。一時的にコロナが収まった時期に、職員の提案による外出レクで、近隣の和食屋とファミリーレストランに皆で出掛けて、食事を楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の見直しを行い、ご本人様にとって最も食べやすい状況で提供している。個別で好きな物を把握し、水分を摂取していただくよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科から指導を受け、適切な口腔ケアを行えるよう支援している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表での排泄パターン把握し、タイミングに合わせて誘導を行っている。また、車椅子の方でも自立は排泄を目指すため、便器での排泄を行っている。 ご自身で交換が可能な方は、居室またはトイレにパットを置き、ご自身で行えるように支援している。	「排泄チェック表」で排泄パターンを把握してトイレ誘導している。常時、おむつを使用している方が2名、布パンツを使用している方が3名いるが、自立している方も多く、その方達は昼夜ともにリハビリパンツを使用している。夜間のみ、おむつやポータブルトイレ使用の方もいる。夜間も、利用者に合わせた支援をしており、声掛けをする方、失敗もあるが完全自立の方とまちまちである。入所時は車椅子でおむつを使用していた方が、排せつの自立支援を継続した結果、日中はリハビリパンツで過ごせるようになった事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日本体操をしていただき、代謝を上げるよう予防を行っている。便秘が数日続いた場合、腹部マッサージを行い予防している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回入浴を行っており、ある程度固定ではあるが、拒否があった際は無理強いせず、時間、日にちの変更を行い対応している。また、入浴日以外で希望される場合、出来るだけ対応できるよう努めている。	各階に機械浴設備あり、1階の浴槽には寝たままの姿勢で入浴する事ができる。入浴管理表に基づき、週2回の入浴スケジュールを立てているが、利用者の気持ちに沿って時間や曜日を変更している。同性介助や一番風呂の希望に対応している。浴槽の湯は都度交換し、職員が持参するゆずやしょうぶを使った湯や、入浴剤で楽しんでいる。好みのシャンプーを使う方もいる。最近では、造花の桜を風呂場に飾って花見を楽しんだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアで傾眠されていたり眠気が強い場合は、お部屋にて仮眠を取ってもらっている。その後の時間を起きて過ごして起きていただくよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルを用いて、処方されている薬をいつでも確認できるようにしている。また、往診時に症状の報告を行い指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの好みや得意なことをレクリエーションとして提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり、希望するような外出は行えていない。週2回程度の外気浴のため駐車場や花壇へお花に行く程度。	コロナ感染を警戒して散歩ができなかったのが、玄関先の花壇や駐車場で外気浴を行ってきたが、3月末には、公園へ花見に出かけた。2ヶ月に一度程度、コンビニへの買い物に出かけており好評を得ている。外出を望まない人や叶わない人は、毎日10時前に行う体操や、家族の希望により、個別で午後に行う体操を楽しんでいる。月2回、体操ボランティアによる全身運動を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者様には、希望するご家族様と相談し、ご自身で管理が出来るよう支援している。また、近くのコンビニへ同行し買い物出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様との連絡がご希望であればお繋ぎするよう支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な生活空間にならないよう、レクリエーションなどで制作した季節の飾りをフロアに飾り、季節感を味わってもらっている。	天井にアクセントを施した広いリビングは、白い壁と木目調の床や家具で落ち着いた空間になっている。壁に手作りの桜の花等、季節の飾りを飾りつけたり、季節ごとにひな人形や五月人形、七夕の笹と短冊、クリスマスツリー等を利用者と一緒に飾って季節感を味わっている。エアコン、空気清浄機、加湿器で温湿度管理をし、3時間に一度窓を開けて換気している。清掃は毎日職員が行っており、利用者がモップ掛けを行う事もある。パートの介護補助職員が階段掃除をしている。「にじいろガーデニングクラブ」活動で、利用者6名と複数名の職員が色々な花が咲くプランターや鉢の他、寄せ植えの鉢を作り、玄関先の花壇に並べて皆で楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの方といつでも近くでお話できるよう、またいつでも違った場所で過ごしたいときに、それが叶うよう席の配置を変えたり、工夫を行っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には家で使っていたものを持ち込んでいただいている。また必要な物はご家族に持ってきていただくように依頼している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、トイレ、お風呂場には手摺りを備え付けており、おひとりで安全に生活が送れるよう工夫している。また、ご入居者様の居室は許可を得て、導線が確保できるよう努め、一緒に配置を考えている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム にじいろ港南台

作成日 令和5年6月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議構成メンバーに最も身近な利用者やその家族が入っていない。また、地域住民との連携のため自治会との関係を構成しつつ、再度構成メンバーの見直しが必要となる。	運営推進会議構成メンバーに、ご利用者様、そのご家族様に参加していただく。また、自治会の方にも参加してもらい、構成メンバーの再編を図る。	運営推進会議に参加していただける利用者様、そのご家族様へ参加していただく。また、自治会長様を介し、自治会の方から参加してもらうよう相談させていただく。	12か月
2	35	災害訓練について、夜間、地震を想定した避難訓練を行えていない。備蓄品について、冷凍食品となっており、電気が止まることも想定し、常温で保存できるものを常備する必要がある。	夜間、地震を想定した避難訓練の実施を行う。また、避難時の自治会との連携について話し合いの場の設定を行う。備蓄品について、常温で長期備蓄できるものへの見直しを行う。	次回、夜間、災害時を想定し避難訓練を実施する。避難経路など見直す点があれば、消防へ相談する。災害時について、運営推進会議に自治会の方へ参加していただき、連携の話し合いを行う。常温で長期保存可能なものを業者へ見積もりを取り、購入する。	12か月
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。